

質問	回答	
1	ハイハイやずりばいで、手が開かず、ぐーの状態なのはどのように見ていけば良いか、気にしなくて良いのか？	ハイハイやずりばいで手がグーのままになるのは、手だけの問題ではなく、肩甲骨の動きや首のすわりなど、からだ全体の発達と深く関わっています。首が安定して背中やお腹の力がつき、肩や腕が自由に動かせるようになって初めて、手のひらも自然に開きやすくなります。もし手がグーのままのハイハイが続くと、将来的に字を書く、ハサミを使うなど、手先の器用さに影響が出ることもあります。また、手の使い方は口の機能発達ともつながっており、食べる・話すといった日常生活の基礎にも関わります。したがって、手の形だけに注目するのではなく、首から肩、体幹を含めた全身の発達を見守ることが重要です。気になる場合は、発達を理解している専門家に相談することをおすすめします。
2	5歳児健診問題は感じる。園だけでなく保護者も、先生も、「様子を見ましよう」という姿勢が最大のカベだと思う。就学が見えてイメージできはじめて、どうしよう、と慌てている。慌てていればまだいいが、何も考えていない、感じていないケースもある。困らないように支援は療育だけに限らず、日常の保育の中でもできるはず。療育を目的としないうちに普通の保育園で日常的な困らないようにする支援のために人的なリソースとして、「作業療法士」「言語聴覚士」「保健師」が揃わないとできないものなのか。	子どもたちを一番身近で見ている保育士が、毎日日常生活に関わっているからこそできることがあるはずです。むしろお子さんだけでなく、ご家族全体に関わっているので、関わり方によっては高い成果が表れると思います。ただ、今の子どもたちを取り巻く環境や、子ども自身の状態が複雑化している中で、一緒に取り組んでいける専門家が必要です。有資格者だからよいのではなく、問題が顕在化する前から、予防的な視点で見られる専門家を探してください。
3	私の長男は早産児で発達に遅れを感じます(不器用、体の使い方が下手)が、コミュニケーションに長けているため、支援が受けれない状況です。次男が療育館に通所していることから、マッサージ等を長男にも施していますが、家庭内でできることにはどんなことがあるのでしょうか？偏った運動にならないよう、粗大運動も兼ねて柔道を始めましたが、体の動かし方が見たものから体に向く伝わらないように見受けられます。習い事などもオススメなどありましたら教えてください。	評価を受けると支援の方向性が見えやすくなります。柔道は粗大運動の一つですが、柔軟性や距離感などの基盤が整ってから効果的です。まずは楽しむ経験として続けると良いでしょう。「できる・できない」より幅広い経験を重ねることが大切です。強みであるコミュニケーション力を生かしつつ、身体面では感覚統合を意識した関わりを重ねていくとよいでしょう。
4	町村先生から、歯科の先生も取り組みをされている、とお話いただきました。導入されるにあたっての経緯をお教えていただきたいです。	身体調和支援を取り入れてくださっている歯科の多くは、矯正治療をされているところが多いようです。近年、矯正治療をするお子さんの増加によって、口だけの問題ではなく体全体の発達に起因するのではないかと、と言う先生が身体調和に興味を持ってくださっています。
5	子供が自閉スペクトラム症と診断されています。外で歩きながら公園では走ったり歩きますが、不安になると抱っこをものすごく求める事が多いです。つばめ顔育館で療育受けると変化しますか？	お子さんの困り感に対して、改善する可能性が大きいです。ぜひつばめ療育館にご相談ください。
6	子供の数が減ってきているがひきこもり、ASDが増えてきたのはなぜか。診断が進んだのか？社会の風調か？	研究者ではないので、はっきりと申し上げることができませんが、様々な原因があると思います。その中の一つとしては、社会の変化(便利になった、女性の社会進出、生活リズムの変化、地域との関係性の变化、食事の変化、など)によって子ども自体が変化している可能性はあると考えています。だからこそ、障害の有無にかかわらず、すべての子どもに関わっていくことが大切だと思っています。飛騨市では身体調和支援の手法の中の10個を、すべてのお子さんにご家族が日常生活の中で実施できるように教室を開いています。詳しくは2026年1月刊行予定の「子どもは手で育てる(仮題)」と言う本に詳しく載っています。
7	ASDの子どもさんの歩行の特徴としてつま先歩行がありますが、どの段階で身について、どの段階で消失するのでしょうか？	ASD（自閉スペクトラム症）の子どもには、つま先歩行の子がとくに見られることがあります。赤ちゃんのときから足のうらの感じ方や体の力の入り方で、つま先で立ちやすい子もいます。ASDの子どもは、音や感覚にとっても敏感だったり、体の力の入り方がちがったりすることで、つま先歩きとなる子もいます。大事ななのは「なんでつま先歩きしているのかな？」と原因をよく見ることです。
8	現在、20代の引きこもりや不登校、休学中の学生の方々の支援をしています。飛騨市には早期発見、支援の開始ができる環境、生活の中で支援が始まる仕組み、相談や全年齢の相談を受ける支援センターとそこからスピーディに支援が始まる体制があることが素晴らしいを思いました。「学校作業療法室を作られたOTの方々の努力と自治体の理解や考え方も素晴らしい、切れ目のない支援ができていて感心します。ただ、こういった仕組みを作ることは難しく時間もかかります。今、現状にある福祉サービスの中で、学校での支援、不登校児の支援、グレーゾーンの児童・学生への自立を伸ばす支援や就労準備性を高める支援を行うにはどういう手段があるのか、考えています。先生方がご存知のやり方やモデルケースがありましたらお聞きしたいです。(特に不登校支援と学生期の自立、社会性のトレーニングについて)	私は乳幼児期の子どもが専門なので、飛騨市以外にこのような取り組みをしている自治体やモデルケースは思い当たるところがありません。今飛騨市では現在、地域おこし協力隊の制度を活用し、初心者の作業療法士でも即戦力として活躍できるようなツールを作成しています。その取り組みの紹介がされているページを添付します。参考にしてください。 https://www.youtube.com/watch?v=gC3_Q2y51Bc https://www.city.hida.gifu.jp/site/koho/2025-07-09-3.html
9	小学2年生、女兒。 ・怒りやすい。イライラしやすい→かんしゃく。睡眠時、ねむりについてから30分~1時間の間に、せき込み、むせ、おえつします。(ほぼ毎日)運動や食事、他、学校生活に問題はありません。呼吸が浅いなどの原因があるのでしょうか。 ・乳歯がぬけても、永久歯が半年以上はえてこず、口腔機能も関わりがあるのでしょうか(乳幼児、今現在もまだ多い。食は何でも食べます。)(言葉、おしゃべりは多い)	原因として、呼吸が浅いことも考えられますね。呼吸は姿勢との関係が深いので、身体状況を見てもらえる専門家に相談してみてください。また、体と口の機能発達を一緒に考えてくださっている歯科医院さんも現在はありますので、相談するとよいと思います。
10	燕市でも保育園が崩壊...そんな状況が出てきています。子も辛いし、大人も辛い。国レベルで改善が必要なのは当然と思いますが、個人としてできること、何かありましたら教えてください。	専門職の方ですので、是非研修にご参加ください。日常の保育の中で出来ることもたくさん紹介しています。

11	健診の在り方や学校作業療法室の取り組みなど、行政に理解を得るために、どのような働きかけが有効なのでしょう。良いアプローチの方法や実践したこと等があれば教えていただきたいです。	飛騨市の動向を常に見ていてください。自治体を取り入れやすいような取り組みの仕方を随時HPで紹介しています。これまでの取り組みについても、実例を挙げて紹介されていますので、参考にされてください。
12	町村先生に質問です。坪倉先生が提示したようなデータなどをもとに、出産後の早期発見として、妊娠期から発達に違和感がもてるような取り組みを保健師の立場として、していることがあれば教えていただきたいです。	現在、私自身は妊娠期から関わることはありませんが、もし自治体にいたとしたら、妊娠期に対しては①生活リズムが整う十分な睡眠がとれること②妊娠期に必要なバランスの良い栄養がとれること③妊娠によって変化していく体に対して安定した呼吸ができる体づくり、を目標に事業を組むと思います。しかし十分な睡眠をとることが簡単ではない社会環境があると思います。
13	飛騨市ではヘルメット療法を自治体で取り入れているということですが、やはり頭の形と脳の発達には関連性があるのでしょうか。	飛騨市ではヘルメット療法を自治体で取り入れている、と言うことはありません。頭の形の非対称性は運動発達の非対称性にも影響すると考えられます。坪倉先生の講演でも、運動発達の非対称性は自閉症のハイリスク、とお話がありました。
14	園で働いていて、子供に発達で気になることがみられたため、母に伝えるも、家族から「子供の発達はそれぞれ」と言われたと、母親より返答があり、支援を拒否(話題としても)されています。健診他、市の発達支援員が園に訪問する時に見てもらったり、いろいろな面から話をご家族にしていますが、何もできず生活しています。このまま様子を見るしかない、刺激しない方がいいのでしょうか？	お子さんのことを一生懸命に考えていらっしゃるお気持ちが伝わってきます。「発達はそれぞれ」というご家族の思いも大切ですが、一方で園での生活の中で気になることがある場合、園だけで抱え込まずに整理していくことも大事です。まず、お子さんがどのように育ってほしいのかをはっきりさせ、そのために今どのような困りごとがあるのかを見極めるとよいです。そのうえで、園でできることと、ご家庭でできること、自治体、専門機関にお願いできることを分け、協力しながら支えていくのが望ましいと思います。一人で悩むのではなく、関わる人みんなで役割を分担していくことで、お子さんの発達をよりよい方向へ導いていきます。
15	同居の姪(高1)について。養護施設(児相)を通して、兄夫婦が養子にした子です。赤ちゃんの時から、発達障害だと思っていましたが、兄夫婦も育て方がうまくできず、今だに興奮するとひどい状態です。私もうまく自分の意見も言えずにいます。何か助言ありましたらお願いします。	お住いの自治体に相談の入り口として「保健センター」があります。ぜひ相談してみてください。中学生、高校生とのことですので、家族だけで解決しようとするのは簡単ではないと思います。また、ご本人も困っていることがあると思ひ、ご本人がどんな生活ができればいいのか、と言う視点で、第三者を入れて考えられると良いと思います。
16	現在、中1の女の子の祖母です。この子が保育園に通っているころ発達障害かもと言われたことがありますが、親は、そんなことない、と対応しなかったのですが、小学校～現在、勉強、宿題等全しないでゲームやYouTubeばかり見えています。夏休みの課題もまったくやらないのに、そのことに気にもしないです。どういうことか理解できない状況です。今後、何か助言いただけるとありがたいです。	
17	パニックをおこし自傷行為をしてしまう子の支援を教えてください。	パニックは本人が起こしたくて起きているわけではありません。パニックを起こす前にどんなことがあったのか、どんな風にパニックを起こしているのか、起こしてからどのように対応したのかを整理して、本人を理解する必要があります。パニックが起こりやすい環境や状況を作らないようにすると同時に、場合によっては発達の未熟な部分を見極め、なぜ発達できなかったのかを考えて、その部分を伸ばしていくことも大切です。はぴりす発達Q&Aが参考になると思いますので、ご覧ください。 https://www.youtube.com/channel/UCBNFRAaCHXRT2o1r87VJlQA
18	姿勢の保持が難しいですが逆立ちや側転などはできます。どのようにしていくと、良いでしょうか。	子どもの運動発達は、まず抗重力活動を通して筋肉のバランスや関節の柔らかさが育ち、その積み重ねの上で歩行へとつながっていきます。歩けるようになると、日常生活に必要な「基本の動き」が整っていくのです。 そのうえで、完成度を高めるために柔軟に動ける体や、五感・前庭感覚・固有感覚が統合されていく経験が欠かせません。今、どんなふうに感覚を使い、筋肉や関節を協調させていくことが大切かで遊びを考えていくことが重要ではないでしょうか。
19	小学校で通常学級に在籍する1年生男子について。集団行動が難しく、1人好きなように行動する姿、こだわりの強さ、授業中の離席等、不応行動が目立っています。校内委員会では特別支援学級へのうながしを考え保護者に説明したものの、保護者には困り感がなく、その子に適した支援ができないまま月日がたっている状況です。小学校でどんな支援ができるか頭を悩ませています。もし、ご助言がありましたらおうかがいしたいです。	支援級へ転籍する、しないではなく、お子さんの状態を把握するための発達検査をする方向へ話を進めていけるとよいのではないのでしょうか。発達検査はお子さんの苦手な部分だけでなく、強みも見つけるために行うものです。検査を受けること＝ネガティブなこと、ではないことを理解していただけることも大切です。また、お子さんが自分の力を発揮するための工夫を保護者と一緒に考えていきたい、と言う姿勢でお話されてはいかがでしょうか。 それも難しい場合は、通常学級内で出来るサポートもあります。教室環境の構造化、スケジュールの視覚的な提示などは特定のお子さんだけでなく、クラス全体に「分かりやすい工夫」となります。飛騨市では学校作業療法室が設置されているように、学校の先生だけで解決していくのではなく、外部の専門家と連携して行かれるとよいのではないのでしょうか。